

家猫の祖先

在リビア日本国大使館



家猫（イエネコ：ペットとしての猫を指す総称）は、人間の友としてなくてはならない存在となり、近年では「パートナー」としての人気も高まっています。

家猫の始まりは、野山でネズミや野ウサギを追っていたネコが、より多くのネズミが集まる農耕集落の穀物貯蔵庫に現れ、そのまま棲みついたと考えられています。

人間は、穀物に手を出さず、ネズミなどの害獣や害虫のみを捕食するネコをやがて穀物を守る益獣として大切にするようになりました。それが家畜化（家猫）に繋がったと言われます。約 4000 年前の古代エジプトから世界に広がり、日本では平安時代初期頃から広まったと言われています。

この家猫の起源は、約 13 万 1000 年前まで遡り、中東の砂漠などに生息していた亜種リビアヤマネコ（学名 *Felis silvestris lybica*）とされ、2007 年に遺伝子を解析した結果、現在の家猫の祖先であることが証明されました。